

平和講演

糸数慶子氏を講師に迎え 「平和講演会」を開催!

憲法を改悪するための手続き法である「国民投票法」が成立した直後の2007年5月26日(土)、当会とみやぎ町憲法9条を守る会の主催により、サンメッセ鳥栖で「平和講演会」を開催しました。

当日は糸数慶子氏(参議院議員・元沖縄県議会議員)を講師に迎え、当会の活動に賛同していただいてる党派を超えた国会議員・県議会議員の方々も含め230名以上の参加がありました。

鳥崎彦講演会実行委員長(当会監事・みやぎ町憲法9条を守る会代表)による開会挨拶の後、講演に先立ち、「戦没者の遺体収容活動報告」を山本直樹理事、「憲法9条10万人アンケート中間報告」を塩川聡事務局次長からそれぞれ行ないました。

その後、糸数慶子氏から、「平和憲法と沖縄―憲法9条を活かし、如何にして平和力を育むか―」をテーマに、1時間以上にわたりご講演いただきました。沖縄戦で起こったご自身やご家族まわりの方々の悲惨な実体験、今なお米軍基地を抱える沖縄の現状、平和憲法の重要性が述べられました。

講演会後は、質疑応答や意見交換が活発に行われ、「改憲の流れを阻止し、悲惨な戦争を再び起こさない取り組みを続け

て行くこと」が確認されたと確信します。

閉会挨拶を塩川正隆副理事長が行い、「戦争は、一部の欲張りとは大多数の無関心層があれば起きる。多くの国民が安倍戦争内閣の現状に関心を持ち、平和な世の中を作らなければならぬ」というメッセージを訴え、講演会を終りました。

お忙しい中、講演をご快諾いただいた糸数慶子氏にあらためて感謝の意を表するとともに、共催を引き受けていただいた「9条の会佐賀県連絡会」、「連合福岡北筑後協議会」の皆様にもこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

なお、糸数慶子氏はこの平和講演会後に参議院選挙に立候補を表明され、見事当選されました。今後は、国政の場で憲法を守る活動を推し進められることと見込みます。私たちも氏の活動を応援するとともに、「戦争をしな

い国づくり」のために活動を行っていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願いたします。

◎今回の講演会を通して「平和」という言葉を重く考えていきたいと心より思いました。それは私の家族、友人といった大

切な人を失う事はありません。だから今後はこのような講演会に多く参加をし、知識を高めていきたい。(20代男性)

◎長崎の永井先生の話がありました。今まさにいろいろ理屈をつけて憲法が改悪されようとしている。周りのムードに流されない事と併せて「改悪は許せない」というムーブを作っていく事が重要。(30代男性)

◎糸数先生のお話は大変悲惨、語りつくせない苦勞をされたことを聞いて戦争は絶対阻止しなければならぬと思えました。(40代男性)

◎平和を守るといふ思いを育むには、経験者の方や経験者に直に話を聞いて学ぶさせていただきます。(70代男性)

◎とても勉強になりました。実際沖縄に行ってみようと思いました。子ども達や若者にもっと考える機会があればいいの、と思う。修学旅行とか社会の時間とか。(20代女性)

◎とても勉強になりました。佐賀市主催で悲惨な戦争を語り継ぐための「平和リレー講演会」が市立図書館で行なわれ、当会副理事長塩川正隆氏が講師として招かれ「戦争を風化させるな」と題し講演を行ないました。

この平和リレー講演会は、佐賀市が毎年行なっているもので、今回は当会の活動が評価され塩川副理事長が招かれたものです。

父親を戦争で亡くした塩川副理事長は、戦場から送られてきた父親からの手紙を紹介しながら、戦争は「一部の欲張りな人間と無関心な国民がいれば起こる」と最近の世相に警鐘を鳴らしました。

そして、安倍内閣は集団的自衛権の行使を認め、アメリカと共に戦争のできる国にしようとしている。

自らも、父親の遺体探しは行なうが、子や孫の骨は探したくないと決意を新たに、戦没者の方々に不戦の誓いを行ないました。

今回の講演会では、糸数慶子氏を講師に迎え、当会の活動に賛同していた党派を超えた国会議員・県議会議員の方々も含め230名以上の参加がありました。

鳥崎彦講演会実行委員長(当会監事・みやぎ町憲法9条を守る会代表)による開会挨拶の後、講演に先立ち、「戦没者の遺体収容活動報告」を山本直樹理事、「憲法9条10万人アンケート中間報告」を塩川聡事務局次長からそれぞれ行ないました。



佐賀市平和展 リレー講演

2007年8月5日、佐賀市主催で悲惨な戦争を語り継ぐための「平和リレー講演会」が市立図書館で行なわれ、当会副理事長塩川正隆氏が講師として招かれ「戦争を風化させるな」と題し講演を行ないました。

この平和リレー講演会は、佐賀市が毎年行なっているもので、今回は当会の活動が評価され塩川副理事長が招かれたものです。

父親を戦争で亡くした塩川副理事長は、戦場から送られてきた父親からの手紙を紹介しながら、戦争は「一部の欲張りな人間と無関心な国民がいれば起こる」と最近の世相に警鐘を鳴らしました。

そして、安倍内閣は集団的自衛権の行使を認め、アメリカと共に戦争のできる国にしようとしている。

自らも、父親の遺体探しは行なうが、子や孫の骨は探したくないと決意を新たに、戦没者の方々に不戦の誓いを行ないました。

今回の講演会では、糸数慶子氏を講師に迎え、当会の活動に賛同していた党派を超えた国会議員・県議会議員の方々も含め230名以上の参加がありました。

鳥崎彦講演会実行委員長(当会監事・みやぎ町憲法9条を守る会代表)による開会挨拶の後、講演に先立ち、「戦没者の遺体収容活動報告」を山本直樹理事、「憲法9条10万人アンケート中間報告」を塩川聡事務局次長からそれぞれ行ないました。

その後、糸数慶子氏から、「平和憲法と沖縄―憲法9条を活かし、如何にして平和力を育むか―」をテーマに、1時間以上にわたりご講演いただきました。沖縄戦で起こったご自身やご家族まわりの方々の悲惨な実体験、今なお米軍基地を抱える沖縄の現状、平和憲法の重要性が述べられました。

講演会後は、質疑応答や意見交換が活発に行われ、「改憲の流れを阻止し、悲惨な戦争を再び起こさない取り組みを続け

て行くこと」が確認されたと確信します。

閉会挨拶を塩川正隆副理事長が行い、「戦争は、一部の欲張りとは大多数の無関心層があれば起きる。多くの国民が安倍戦争内閣の現状に関心を持ち、平和な世の中を作らなければならぬ」というメッセージを訴え、講演会を終りました。



語り継がれる戦争体験談

7月12日、久留米大学教職員組合の平和講演会において、当会の高田俊秀氏が講師として講演を行ないました。この講演会を主催した職員から寄せられた文章を紹介いたします。

毎年恒例になってきた久留米大学教職員組合の「平和」について考える勉強会も今年で4回目に なりました。「平和」と一言で簡単に表せる言葉ですが、戦後62年が過ぎ、「戦争」という言葉を私たちの生活のなかには感じることが少なくなりました。

今回の勉強会で講師をしていただいたのは、「NPO法人 戦没者を慰霊し平和を守る会」の方で、戦争実体験者でもある高田俊秀氏です。高田氏は鹿児島出身で、17歳のときに出兵され、沖縄戦を経験されました。

そこで戦友を沢山亡くされ、生き残った自分に何が出来るのかと考え、長年に渡り遺体収容をされています。

高田氏と私の出会いは、4年前の沖縄での遺体収容でした。第一印象は「気さくで明るいおじいちゃんだなあ」と思い、お話をさせていただきました。

沖縄の戦争地域(当時の)を案内していただいたとき、高田氏が「戦争」とは、「勝った国も負けた国も辛い思いをしているのです」と言ったその言葉が私にはとても印象的でした。それは勝った国が辛い思いをしているなんてあまり考えもしな

かったからです。何故に勝った国が辛い思いをしているのか。それは、戦地で戦った米軍の方は、容赦なく女性・子供を殺害し、自国に帰った後、苦しんでいるからだそうです。戦争とは参加した全ての国が沢山のものを失うのだと改めて感じました。

高田氏は、これまでの講演会でも自身の戦争体験を話すことはほとんど無かったのですが、今回、会場に集まった大勢の参加者を見て、今まで誰にも話したことのない悲惨な話までしていただきました。きっと、この話を高田氏は、生涯口にするつもりはなかったでしょう。会場には涙する参加者もいました。最後に高田氏は、「言わば私は殺人者なのです、だから戦争はいけないことなのです」とおっしゃいました。次世代の人々に伝えなければ、「戦争」がまた繰り返されると思ひ、話していただいたのでしよう。講演後、塚のなかでの楽しみはありましたか?と参加者に質問されたとき、高田氏は、驚かれたそうです。何回か戦争体験を話す機会があったのは、初めてだったそうです。そして、戦争中の

辛い思い出だけではなく、戦友と家族の写真を思い出したり、しゃべったりしたことを思い出します。国や先生が教えてくれる「戦争」とは、正しかったとまでは言えませんが、否定はしていません。指導者によって、「戦争」を美化することも可能なのです。今後の未来に何が出来るか、「戦争」を繰り返さない、それは平和維持ということだと思います。

私たちが医療従事者は、常に「生命」と共存して日本を守るために「核」を保有すべきだと考える方々がまだ大勢いらっしゃいます。第二次世界大戦は、日本は自衛のために戦争をせざるを得なかったと主張し、東京裁判で被告たち全員を「無罪」という結論を出した一人の判事ラダービード・パール氏を、戦争が「正しかった」と評価して靖国神社にも明記されています。「歴史」を振り返ると「戦争」

様々なあり、教育者側の意思によって、若者の「戦争」への主観が違ってきます。国や先生が教えてくれる「戦争」とは、正しかったとまでは言えませんが、否定はしていません。指導者によって、「戦争」を美化することも可能なのです。今後の未来に何が出来るか、「戦争」を繰り返さない、それは平和維持ということだと思います。



講演する高田俊秀氏